資料１

きょうとプレコン推進に係る今後の取組方針（骨子案）

※前回からの修正点は下線

Ⅰ　背景・経緯

○　国においては、「成育医療等基本方針」や「プレコンセプションケア推進５か年計画」に基づき、プレコンセプションケアの推進が進められている。京都府においても、令和５年 12 月に改定した「京都府子育て環境日本一推進戦略」において、重点プロジェクトの一つとしてプレコンセプションケアプロジェクトを位置付け、これまで様々な取組を推進してきたところである。

○　また、国の「プレコンセプションケア推進５か年計画」においては、都道府県や市町村における地域の実情に応じた「地方版推進計画」の策定及び計画的な取組の推進が求められている。

○　このため、国の動向や本府におけるこれまでの取組を踏まえ、今後の取組の方向性を取りまとめた「きょうとプレコン推進に係る今後の取組方針」を策定し、本府における「地方版推進計画」として位置付けることにより、府内全域でプレコンセプションケアの更なる推進を図る。

Ⅱ　本府の方針

○　京都府で推進するプレコンセプションケア（「きょうとプレコン」）は、性や妊娠に関する問題は、自身の価値観や他者との関わり方とも深く関係するとの認識のもと、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）の考え方を基本として推進する。

○　また、以下の４つの視点を持ち、若年層から各世代までの教育・啓発活動等の「集団アプローチ」と実際に性や妊娠、不妊治療等で悩みを抱える方への「個別アプローチ」を車の両輪として実施する。

１．妊娠率と年齢との関係、避妊方法といった妊娠に関する科学的な知識を身に付ける機会を提供する
２．若年期から自身のライフデザインを考える機会を提供する
３．婦人科・泌尿器科の受診への心理的ハードルを下げる
４．自分のからだは自分のものであり、自らの意思に基づく選択が尊重されるという SRHR（性と生殖に関する健康と権利）の考え方を普及する

○　乳幼児期から社会人に至るまで、ライフステージに応じた切れ目のない施策を推進し、「きょうとプレコン」に取り組むことで、全ての人が自らの主体的な選択に基づき、自分が望む生き方（ウェルビーイング）を実現するとともに、望む妊娠を叶え、予期せぬ妊娠を防ぐことができる社会の実現を目指す。

○　取組に当たっては、保健、医療、福祉、教育、企業等の幅広い主体が連携し、社会全体でプレコンセプションケアを支える環境づくりを進める。また、多様な専門職がそれぞれの専門性を活かしながら相互に連携し、府民一人ひとりのライフステージに応じた支援が提供できる体制を構築する。

Ⅲ　主な取組

＜集団的アプローチ＞

（１）全世代対象

・きょうとプレコンの普及啓発や情報発信の強化
・地域における普及啓発の担い手確保に向けた、プレコンサポーター（国制度）の受講促進
・きょうとプレコンの考え方等を学んだ専門職（保健師・助産師等）である「きょうとプレコンアドバイザー」の養成及び出前講座等の実施体制の整備

（２）乳幼児期対象

・乳幼児健診等の機会を活用した保護者への普及・啓発
・保護者に対する出前講座の実施
・保育関係者等に対する研修会の実施

（３）小学校・中学校対象

・児童生徒に対する出前講座の実施
・保護者に対する出前講座の実施
・教員、養護教諭等に対する研修会の実施

（４）高校生対象

・「高校生教育プログラム」を活用した授業の実施
・「高校生教育プログラム」の学校現場における活用事例の収集及び共有
・教員・養護教諭等を対象に、「高校生教育プログラム」の活用や生徒からの個別相談への対応等に関する体系的な研修会を実施

（５）大学生・社会人対象

・セミナーやイベントの開催等を通じた普及啓発
・社会人教育プログラムを活用した社内研修の実施
・企業・大学等と連携した取組の推進

＜個別アプローチ＞

・妊娠・出産・子育て・不妊・プレコンセプションケアなどの幅広い悩みに対応できる SNS 相談などの体制整備
・相談内容に応じた適切な相談機関や医療機関へのつなぎ支援
・学校・行政（本庁・保健所・市町村）・医療機関等との連携を強化した切れ目のな

い支援体制の構築

Ⅳ　目標（案）

乳幼児期から社会人まで切れ目なくプレコンセプションケアに関する学びや支援を受けられる環境の整備を目指す。

＜各年代のねらい＞

乳・幼児期	保護者や周りの大人との関わりを通じて、自分のからだやこころを大切にする気持ちを育むとともに、基本的な生活習慣や人との心地よい関わり方を身につける。
小学校	自分のからだやこころの変化に気づき、自分を大切にするとともに、困ったときに身近な大人へ相談する力を育む。
中学校	性や健康に関する科学的な知識をもとに、自分と相手の健康や権利について考え、適切な判断や相談につなげる力を育む。
高等学校	現在の健康と将来のライフデザインとのつながりを理解し、自分らしい人生を主体的に選択する力を育む。
大学・社会人	自身の望むライフデザインを踏まえ、健康管理や適切な受診・相談行動を主体的に実践する力を育む。

＜目　標＞

指標
１．きょうとプレコンアドバイザーの養成数
２．小・中学校への出前講座実施数
３．高校生教育プログラムの活用校数又は活用率
４．大学生や若手社会人等を対象としたセミナーの参加人数
５．学校における個別相談の実施校数又は実施率

Ⅴ　推進期間

令和８年度から令和 11 年度まで（４年間）

※国「プレコンセプションケア推進５か年計画」：令和７年度～令和 11 年度